



学校経営部

子どもが育ち教職員が生きる学校経営の推進

山形市立桜田小学校 阿 部 勉

I はじめに

充実した学校経営を進めるには、まず、私たち教職員が元気でなければならぬ。本部会では、教職員がやりがいをもって生き生きと働き、それが子どもたちの笑顔につながっていく学校経営の推進のための研究を進めてきた。

II 活動方針

1 研究主題

子どもが育ち教職員が生きる学校経営の推進

2 研究の視点

- (1)ベテランと若手の教師を共に生かすチーム体制の在り方
- (2)人材育成につながる働き方改革の推進

III 本年度の活動

今年度は東北連小研究協議会山形大会が7月に開催された。それに向けて、本部会は『東北連小総務部』としての業務に専念した日があり、7月までの部としての話し合いは、東北連小の準備に当たることが多かった。

第1回部会 4月11日(火)

- ・昨年度の活動経過、成果と課題の確認
- ・活動方針検討、組織づくり、年間計画作成
- ・東北連小山形大会の準備進捗状況確認

部会〔東北大会準備会〕 5月12日(金)

- ・中心協議(9月5日)の講師について
- ・東北連小山形大会の準備進捗状況確認

部会〔東北大会準備会〕 6月9日(金)

- ・中心協議(9月5日)に向けての運営準備
- ・東北連小山形大会の準備進捗状況確認

〔東北連小山形大会〕 7月6日(木) 7日(金)

第2回部会 9月5日(火)

●中心協議 講話・実演

「協働的な学びをはぐくむ電子黒板の活用について」

講師 市教委 ICT 教育推進係長 板垣真也 氏

第3回部会 10月6日(金)

研修①「学校経営と企業経営」

～全ては人材で成り立っている～

講師 株式会社アイアール

代表取締役 市村 一敏 氏

第4回部会 12月8日(金)

研修②「令和7年度 県連小研究協議会 実践発表に向けて」

南沼原小：石澤友章校長より話題提供

第5回部会 2月9日(金)

- ・今年度活動の成果と課題、次年度の方向性について検討

IV 活動内容

1 中心協議 講話・実演

「協働的な学びをはぐくむ電子黒板の活用について」

講師 市教委 ICT 教育推進係長 板垣 真也 氏

〔ねらい〕今年度7月末に各学校に配置された電子黒板。その活用を推進するため、校長としてその使い方やメリットについて、実物を目にして理解する。

〔電子黒板のメリット〕

- ・画面に書き込みができる
- ・教師の動線、視線、体の向きなどが自然な動きになる

- ・子どもたちの表情を見ながら授業展開ができる。従来のスタイルを崩さずに利用できる。
- ・タブレットと強い連動性があり、児童の画面をすぐに映し出し、発表に使える。
- ・スカイメニュークラウドと併用すると、更に拡張性が広がる。
- ・一人一人の考えを一覧表示させることができ、友達の考えをもとにみんなで協働的に考えることができる。

〔各学校での活用を〕

担任ができるところからやってみることが大事。校長として情報を提供して活用を促す。

2 研修① 外部講師を招いての講話

「学校経営と企業経営」

～全ては人材で成り立っている～

講師 株式会社アイアール

代表取締役 市村 一敏 氏

(1)自己紹介・ご自身の経歴

- ・剣道に明け暮れた小学校時代
- ・高校から山岳部 大学時代はネパールへヒマラヤにも挑戦 体験から「何とかなる」という意識の芽生え 国際交流の原点
- ・1992年 ハイテック（大阪）入社 怖さ知らずの若者 全国2位の営業成績を
- ・1996年 26歳で山形に戻り起業 インターネット関連の仕事を進める 丸十大屋、県庁、市役所等、HP作成に関わる ネットワークの維持管理 等々
- ・2001年から銀行と提携も進める
- ・2005年 ベトナムへ進出

(2)人材育成等、経営者としての考え

- ・若い人に「大変だね 大変だね」とばかり言わない。チャレンジさせる。
- ・発想力を磨きたい
(例)「今日の不思議」を毎日社員から集めている。それらの中から、面倒くさいものはプログラムに任せちゃえと、発想が生まれる。そのような仕組みをつくるのが社長の役目。学校の「健康観察システム」の発案にもつながる。

- ・「～が足りないから…」など、できない理由を探してばかりではだめ。自分たちができることを探して気が付き、変えることに挑戦してほしい。
- ・若者が来てくれるような環境を整えなければ、離れていく一方だ。(例)休みを取れる仕組みをつくる。現在の1学級一担任制は「この学級は私が」との意識が強すぎる。学年担当の職員数人で学年全体を担うようにすることも考えられる。

→ 学校は今後、様々なものを削るだけではなく、新たなシステムを創るとき。各学校でできることを工夫して行っていきたい。

3 研修②「令和7年度 県連小研究協議会 実践発表に向けて」

南沼原小：石澤友章校長より話題提供

領域は「学校経営」

研究課題「目指す学校づくりと組織・運営の活性化 ～学校の課題を明確にした学校経営の推進～(視点1)」

- ・各校の課題としてあげられるのは
①学年主任層の量的・質的薄さ ②学年担任間の不和、年齢格差 ③特別支援学級の増加と対応できる教員の量的・質的薄さ
- ・これまでの学校文化にとらわれない取り組みを模索していきたい。(例)学年担任制(学級担任を固定せず、学年内で交代制)(例)通常学級と特別支援学級の担任の交流配置(通常学級を担任していた教員を特支援担任へ積極的に。その逆も積極的に。)
→ 市としての取り組みの発表であるから、自校だけの視点ではなく、広く各校長から意見をいただくなどをしながら進めていく

V おわりに

人材育成、ICT活用、働き方改革等、直面する教育課題解決に向けた研修を行うことができた。

ご指導をいただいた先生方に感謝申し上げます。

学校経営部員

◎阿部勉(桜田小) ○林 敏幸(山大附属小)
村上ゆかり(山四小) 斎藤隆史(山一小)
石澤友章(南沼原小) 高橋郁子(山寺小中)